

東京都国際交流プロジェクトへの参加 <中央区立阪本小学校での実施報告>

渡部 千秋 ・伊藤 誠

コロナ禍で中断していた、東京都主催の国際交流プロジェクトが再開され、アルゼンチンに関する授業の要請のあった阪本小学校で、3月3日 同校5、6年生60名を対象に「遠くて近い国アルゼンチン」のタイトルでプレゼンテーションを行いました。（校内で他学年にも同時中継を実施）

阪本小は、日本橋兜町のど真ん中にあり、一番官立小学として来年で創立150周年という伝統ある学校で、国際理解教育を目標として講師を招いての講義授業を定期実施しています。小川校長先生も30年前にアルゼンチンを訪問され、その印象を冒頭で話されるなど、生徒達もアルゼンチンへの理解を深めようと、熱心に聞いていました。

= 当日のプログラム =

10:45	校長先生の挨拶 当協会並びに音楽演奏者の紹介
10:50-11:40	伊藤理事によるパワーポイント「遠くて近い国アルゼンチン」のプレゼン
11:45-12:10	天利さんのグループによるアルゼンチンフォルクローレの生演奏
12:10-12:25	アルゼンチン関連展示物（ gaucho の服、民族楽器等）紹介
12:25-12:30	生徒代表の感謝の辞

1. 「遠くて近い国アルゼンチン」のプレゼンテーションについて

前回の大田区萩中小バージョンをアップデートしたパワーポイントで、アルゼンチンに行くにはどのルートでどのくらいかかるか？今の季節は？クイズ形式の説明や豊かな大自然—イグアスの滝やペリトモレノ氷河の迫力ある動画に生徒たちは真剣な顔で見入っていました。

その他スポーツ大国アルゼンチン、アサド等の食べ物、農業大国アルゼンチン、日本との経済関係（ヤシレタ水力発電、トヨタ始め自動車工場進出、ブエノス地下を走る丸ノ内線中古車両）タンゴやフォルクローレの音楽、簡単なスペイン語等盛りだくさんの内容で約50分の講義を皆楽しみながら、聴いていました。



生徒代表よりの講演に対する謝礼の言葉

2. フォルクローレ音楽の生演奏

前回萩中小でも出演した天利紀子さん他 3 人のグループ“ケーナワイラ・デ・砂町”によるアルゼンチンフォルクローレの定番 「花祭り」(EL HUMAHUAQUENO フファイ州ウマウアカの人) や「コンドルは飛んで行く」(EL CONDOR PASA)「岩山の踊り」(HUAYNO DE LA ROCA) の生演奏があり、特に花祭りでは、馴染みのある児童もいて、全員の手拍子で盛り上がり、笑顔で楽しんでいました。

＜フォルクローレの生演奏＞



3. 展示品コーナー



日本ラテンアメリカ交流協会から提供のガウチョの衣装、ポンチョ、サッカーユニフォーム、国旗ボカ・ジュニアスの旗、マテ茶ボンビージョ、写真パネル、楽器—サンポーニャ、ケーニャ、チャランゴ（木製、アルマジロ製）のコーナーでは、児童たちが実物に見入って、色々質問も受けました。今回はコロナ禍のため、吹いたり出来ませんでした。特にアルマジロのチャランゴ等楽器にちょっと触れては、「うれしくて心にのこります」という生徒もいました。

4. 終わった後の生徒の感想文

<主なもの紹介>

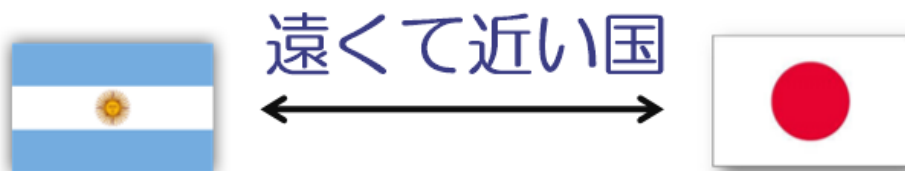
- ・アルゼンチンがこんなに豊かで素晴らしい国とは知らなかった。アルゼンチンに行って見たい。
- ・アルゼンチンの地理・歴史に興味。雄大な自然に感動。日本と比べてスケールが違う。
- ・スライドのクオリティーが高く、イグアスの滝や氷河など迫力があつた。
- ・フォルクローレ音楽の音色も美しく伝統を感じた。リズムカルで一番乗れたのは「花祭り」
- ・アルゼンチンと日本のつながりを教えて貰った。「遠くて近い国」の意味がわかった。
- ・これを機会に日本とアルゼンチンがもっと仲良くなるといい。

当日は、東京都教育局の方も立ち会われ、沢山の写真の提供も受けました。

送られてきた生徒 60 名の感想文は上記の通りですが、アルゼンチンの事が良くわかり、興味と関心を持った様子が伝わり、協会の活動の目的は達せられたようです。他の学校からの講演希望もあり今後とも、将来を担う子供達への活動は続けて行きたいと思います。

(わたなべちあき：当協会常務理事)

(いとうまこと：当協会業務執行理事)



アルゼンチン

2022年 3月3日

(一般社団法人) 日本アルゼンチン協会

